

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	6企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ あんえんたーていめんと 株式会社アンエンターテイメント	団体ウェブサイトURL	https://www.wa-league.com/
代表者職・氏名	代表取締役 高久照敏		
制作団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東銀座
	東京都中央区銀座7-13-6 サガミビル2階		
電話番号	050-3624-6767		
ふりがな 公演団体名	おおくらりゅう きょうげん 大藏流狂言	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	能楽師大藏流狂言方 大藏彌右衛門		
公演団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東銀座
	東京都中央区銀座7-13-6 サガミビル2階		
制作団体 設立年月	2002年10月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 高久照敏 経理担当 宮田幸子	当団体の活動に賛同し、伝統芸能に携わる芸術家および関係者 構成員の過半数以上の認可により加入	
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	三隅雄亮
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	宮田幸子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	school.an.sai@gmail.com		

平成14年10月 東京都新宿区に有限会社マスウェルス設立。(資本金300万円)
平成21年3日 株式会社アンエンターテイメントに名称変更

<p>制作団体沿革</p>	<p>日本の伝統芸能(歌舞伎、能楽、邦楽)などの国内振興および国際交流の推進に寄与することを目的として設立。世界70カ国136都市で数々の伝統芸能の公演をプロデュース。 日本の伝統文化・芸術の国内振興および国際交流に寄与することを目的として活動。</p> <p>国内の小・中・高校で日本の伝統芸能である能楽、狂言、和楽器等の公演・ワークショップを企画制作。</p>				
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>平成23年より学校等における公演実績多数。累計200公演以上</p> <p>(直近) 令和4～5年度 大蔵流子ども狂言「附子」「柿山伏」 「和太鼓グループ彩「楽しいが響きわたる芸術鑑賞会」 琉神「琉神ワークショップ掛川市・静岡市公演」 文化庁 令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業「文化芸術収益力強化事業」 全国20ヶ所(子供たちの伝統文化の体験事業等)</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成28年、二階堂養護学校(天理市)にて「附子」「柿山伏」の本公演と体験ワークショップを実施。 平成29年、東大寺整枝園(奈良市)にて狂言体験ワークショップを実施。 平成28年、七条養護学校(奈良市)・帯広盲学校(北海道帯広市)にて「附子」「柿山伏」の本公演と体験ワークショップを実施。</p> <p>令和2年度 文化芸術による子供育成事業～巡回公演事業～ 山梨県立やまびこ支援学校</p> <p>令和4年度 文化芸術による子供育成推進事業～巡回公演事業～ 茨城県立境特別支援学校</p> <p>令和5年度 文化芸術による子供育成推進事業～巡回公演事業～ 千葉県立松戸特別支援学校、神奈川県立麻生養護学校</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/7wX7TksY4Ck</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="927 1495 1003 1535">ID:</td> <td data-bbox="1003 1495 1427 1535"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="927 1535 1003 1568">PW:</td> <td data-bbox="1003 1535 1427 1568"></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 大藏流狂言 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	大藏流狂言「仏師」・「太刀奪」芸術鑑賞会		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>狂言「仏師」、「太刀奪」</p> <p>【プログラム構成】</p> <p>①挨拶・「狂言ってなあに？」・「仏師」鑑賞ガイド（登場人物やあらすじ等を紹介）</p> <p>②狂言「仏師」の上演</p> <p>③「太刀奪」鑑賞ガイド（登場人物やあらすじ等を紹介）</p> <p>④狂言「太刀奪」の上演</p> <p>⑤クイズコーナー。</p> <p>⑥狂言をみんなで演じよう！「菌（くさびら）」の共演。</p> <p>⑦質問コーナー。</p> <p>⑧感想発表</p> <p>※〇は児童・生徒の共演、参加、体験 別添 本公演を参照</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>●鑑賞「仏師」（上演時間20分） 在所で持仏堂を建立した田舎者は、中に安置する御仏を買ひ求めに京の都へやってきます。都の詐欺師が近づき自ら仏師であると偽って、金を騙し取ろうと企てます。</p> <p>●鑑賞「太刀奪」（上演時間20分） 神社に参詣に出かけた太郎冠者は、良い太刀を持った男を見つけ奪おうとしたが、逆に脅され主人から預かった刀を奪われる。</p> <p>●鑑賞「菌」（上演時間10分） ある男の屋敷内にきのこが生えて困り、山伏が祈禱をはじめますが、祈れば祈るほどきのこは増えていきます。</p>		
演目選択理由	<p>●「仏師」「太刀奪」とも所作・セリフ・擬音などの狂言の魅力が盛り込まれた入門編で想像力を働かせながら面白く楽しく鑑賞できる演目です。小学生低学年でも理解しやすく、小学生高学年から中学生にとっては、日本文化の様式美や形式などを学ぶ上でも適切な演目です。</p> <p>●「菌」のキノコ役は平易な所作とコミカルな擬音で児童生徒も短時間で習得でき、楽しみながら舞台に参加していただけます。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>●クイズコーナー 主に所作と擬音についてのクイズを出します。「何をしているところでしょうか？」「何の動物の鳴き声でしょうか？」など狂言ならではの表現を楽しみながら学んでいただけます。</p> <p>●狂言をみんなで演じよう！「菌（くさびら）」の共演 ワークショップでリハーサルをした代表の児童生徒（～10名程度）が舞台上に上がり、狂言「菌（くさびら）」のきのこの役を演じてもらい狂言師・先生たちと一緒に作品を作り上げます。 併せて、その他の児童生徒も鑑賞している席で礼儀作法、狂言の基本姿勢や発声を体験していただけます。</p> <p>●質問コーナー 児童生徒の様々な質問に狂言師がお答えします。客席に狂言師が降りてマイクを向けます。児童生徒・先生との距離がより近くなる時間です。装束を間近に見てもらふことも目的としています。</p>		
出演者	<p>能楽師狂言方大藏流 大藏彌太郎※、大藏基誠※、大藏教義※、茂山忠三郎※ 小梶直人、吉田信海、富田昌美、田中惇之、上田圭輔 上記メンバーのうち5名 ※重要無形文化財保持者(総合認定) 別添 プロフィールを参照</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 5 m 台数: 1 台
	前日仕込み	4冊	前日仕込み所要時間 時間程度

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		当日仕込み/所要時間			
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	11時40分	11時40分～13時10分	13時40分～15時20分	10分	15時20分～16時00分	16時00分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	0日	10日	10日	
	11月	12月	1月	計		
	10日	10日	10日	70日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安		～12人	
			鑑賞人数目安		～700人	

体育館での能舞台



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

音響: 解説にはワイヤレスマイクを上演には補助的にバウンダリーマイクを使用します。
舞台設置に必要な面積 幅10m×奥行き3m(以下でも対応可能)

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10～700名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>①ご挨拶(10分) 指導者は紋付袴で体育館に集まった児童生徒の前に登場します。狂言に関して基本的な知識と日本の文化・伝統芸能について簡単に分かり易く説明します。</p> <p>②狂言「盆山」を解説を付けながら鑑賞していただきます。(15分)</p> <p>③体験(20分) 次に体験を実施。稽古を始める前の挨拶(礼儀作法も含め)から基本姿勢と所作、動物の鳴き真似や擬音などの狂言ならではの表現法を解説と実演を交えて体験していただきます。</p> <p>④狂言「菌(くさびら)」のお稽古(30分) 本公演で共演する「菌(くさびら)」のきのこの精を全員で練習します。指導者より所作、発声など細部にわたって稽古をし、本公演での共演に臨んでいただきます。出演の代表児童生徒は複数のグループに分かれて練習します。</p> <p>⑤発表会と感想(15分) 練習を終えたグループごとに「菌(くさびら)」のきのこの精を発表します。 またワークショップに参加しての感想や本公演で共演することへの意気込みなどを質問していきます。</p> <p>標準:90分 別添 ワークショップを参照</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>『昔を知る、今を知る』 解説付きの鑑賞を通して、狂言への興味はもとより、約700年前の日本と現代との違い・共通点などを楽しく見つけて、歴史への興味、価値の多様性の発見につなげていただきたいと思います。</p> <p>『つくること、表現することを知る』 観賞するだけでなく、演じることの体験により、その過程で、作品作りの楽しさや大変さ、また皆で力を合わせ作り上げることの大切さを学ぶ機会にさせていただきたいと思います。</p> <p>『正しさ、美しさを知る』 指導者である狂言方と時間を共有する事で、日本の伝統文化が内包している様々な“価値”について、学ぶことができます。そしてプロフェッショナルリズムに触れることにより本物とはなにかを知ることができます。 また日本人が大切にしてきた礼儀作法や立ち居振る舞いなども身に付ききっかけにさせていただきたいと思います。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<div style="display: flex; align-items: center;">   </div> <p>体育館のフロアに四方柱・橋掛りで仮の能舞台をつくり実施します。児童生徒には図のようにフロアで指導者を中心に取り囲むよう座ります。また共演の稽古は能舞台内で行います。 体操着など運動しやすい服装で参加していただきます。</p>		

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

文部科学省の平成29・30・31年改訂の新しい学習指導要領には「伝統や文化に関する教育」の重視が明記されています。その上で本事業は、多くの児童生徒に学校教育の現場において、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を与える大変重要なプロジェクトです。

次世代を担う子ども達には、なぜ私たちの生活に「伝統文化」や「芸術」が必要なのかを自分たちで考え、自分なりの答えを導き出して欲しいと考えております。伝統や文化を無限にある回答を自分に置き換えて考えることは、想像力を育み人間形成に大きな役割を果たします。

その為大蔵流狂言では、児童生徒の目線に立ち、難解と思われがちな伝統芸能を解りやすく見ていただけるよう、構成・演出の工夫をしています。

ワークショップ、本公演後は、伝統芸能は面白いものとの認識し、日本の伝統文化に関心を高め児童生徒の「知識、技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」を育むことを目指し本事業に取り組みます。

また狂言だけではなくの児童生徒の家庭やその地域独自に継承されている伝統的な事柄にも目を向けさせることにより、大切に継承し発展させる精神を育む効果を期待します。

本事業では児童生徒の安全と幸福を最優先に考え、快適で安心して参加・鑑賞できるように心がけます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

大蔵流子ども狂言がこれまで実施してきた学校公演でのノウハウを活かし、専任の担当者が電話、メール等で事前ヒアリングをして実施校のご要望などを把握します。出演の主要メンバーと情報共有してワークショップ、本公演の準備をします。令和2,4,5年度の文化芸術による子供育成総合事業でのノウハウを活かし円滑な運営を実施します。

【事前ヒアリング】

各校の担当の先生へ電話連絡。学校側の希望や公演場所の状況・設備、搬入経路、周辺的环境など確認してワークショップや本公演の準備を進めます。狂言「菌(くさびら)」に出演希望の児童生徒を選抜しておいてもらいます。

【ワークショップ】

ワークショップでは、狂言「盆山」を解説と実演、児童生徒へのクイズを交えた鑑賞で初めて接する狂言に楽しみながら親しんでいただきます。

次に座る・挨拶・立つ・運ぶ・止まる・座るといった基本動作や「盆山」にでてくる所作や感情表現を体験していただきます。

このように狂言の魅力を知り、技能的な体験をすることで本公演への関心を高めます。

狂言「菌(くさびら)」に出演する代表児童生徒は、指導者より立居振舞、声の出し方など細部にわたって稽古をし、その後いくつかのグループに分かれ各指導者が小人数で舞台上の動きやきっかけをくりかえし指導し作品を完成させ本公演での共演に臨みます。

子供たちとの共演は、彼らの創造性や想像力を引き出す素晴らしい機会です。楽しさを重視し、子供たちが表現できる環境を提供します。

ワークショップ終了後に、なぜ私たちの生活に「伝統文化」や「芸術」が必要なのかを考えるワークシートを配布して記入してもらいます。

→本公演前日までに先生がワークシートを回収し、団体まで送付していただきます。

本公演実施にあたり担当の先生と最終調整します。

【大蔵流】

【本公演】

公演プログラムを事前配布し本公演への期待感を醸成します。

狂言師が児童生徒の目線に合わせてながら、わかりやすく(鑑賞学年にあわせながら)伝統文化・狂言・作品(あらすじ)の解説を行います。

作品の合間では基本動作・所作・感情表現などを鑑賞している席で体験してもらったり、狂言についてのクイズを出題したり、児童生徒といっしょに楽しみながら学びます。

【共演コーナー】

当日は本番前に動きやきつかけの確認を「菌(くさびら)」出演の代表児童生徒、先生とおこないます。

また舞台上では安全を最優先に考え怪我等の無いよう、スタッフが大道具や導線などへ注意を払います。また児童生徒たちにも安全に関するルールや指示を明確に伝えます。

質問コーナー、ディスカッション、感想発表など児童生徒参加のプログラムでは、児童生徒の言葉や表現方法に適応し、コミュニケーションを円滑に行います。児童生徒が理解できるように、分かりやすく説明したり、質問に答えたりします。

項目内容
本公演

① 挨拶・「狂言ってなあに？」・「仏師」鑑賞ガイド

自己紹介の後、
狂言って？
狂言の登場人物は？
能舞台って？などお話しします。

続いて「仏師」のあらすじや、
登場人物の説明をします。



② 狂言「仏師」の上演

在所で持仏堂を建立した田舎者は、中に
安置する御仏を買い求めに京の都へ
やってきます。都の賑やかさになかなか
仏師を探せない田舎者の元へ、都の詐
欺師が近づき自ら仏師であると偽って、
仏の種類・大きさ・値段を交渉して金を
騙し取ろうと企てますが・・・



③ 「太刀奪」鑑賞ガイド

「太刀奪」のあらすじや、
登場人物の説明をします。



④ 狂言「太刀奪」の上演

神社に参詣に出かけた太郎冠者は、良い
太刀を持った男を見つけ奪おうしたが、
逆に脅され主人から預かった刀を奪われ
る。主人と共に刀を取り戻そうと待ち
伏せし、主人が男を捕まえると、太郎



項目内容

⑤ クイズコーナー



所作と擬音についてのクイズを出します。
「何をしているところでしょうか?」「何の動物の鳴き声でしょうか?」
など狂言ならではの表現を楽しみながら学んでいただきます。

⑥ 狂言をみんなで演じよう!「菌(くさびら)」の共演



ワークショップでリハーサルをした代表の児童生徒が舞台上に上がり、
狂言「菌(くさびら)」のきのこの役を演じてもらい
狂言師・先生たちと一緒に作品を作り上げます。

⑦ 質問コーナー



児童生徒たちの様々な質問に狂言師がお答えします。
客席に狂言師が降りて質問者にマイクを向けます。

項目内容

⑤ クイズコーナー



所作と擬音についてのクイズを出します。
「何をしているところでしょうか?」「何の動物の鳴き声でしょうか?」
など狂言ならではの表現を楽しみながら学んでいただきます。

⑥ 狂言をみんなで演じよう!「菌(くさびら)」の共演



ワークショップでリハーサルをした代表の児童生徒が舞台上に上がり、
狂言「菌(くさびら)」のきのこの役を演じてもらい
狂言師・先生たちと一緒に作品を作り上げます。

⑦ 質問コーナー



児童生徒たちの様々な質問に狂言師がお答えします。
客席に狂言師が降りて質問者にマイクを向けます。

⑧ディスカッション・感想発表



ワークショップ参加の児童生徒が記入したワークシート
(なぜ私たちの生活に「伝統文化」や「芸術」が必要なのか)
をもとにしたディスカッションや感想発表を行います。

項目内容

項目内容
プロフィール

監修



大藏彌右衛門

大藏流二十五世宗家 二十四世宗家故大藏彌右衛門の長男、父に師事。二十五世宗家を継承。重要無形文化財総合指定保持者。(社)能楽協会 日本能楽会会員 大藏会・大藏狂言会主宰。

重要無形文化財保持者(総合認定)。

主要出演者プロフィール



大藏彌太郎(おおくら やたらう)

二十五世宗家大藏彌太郎の長男。祖父故二十四世宗家大藏彌右衛門及び、父に師事。五歳の時「以呂波」にて初舞台。「末広がり」「三番三」「那須」「釣狐」を被く。平成十年、宗家に伝わる幼名「千太郎」を襲名。平成十四年、基誠(弟)・教義(従兄弟)と共に《大藏流若手狂言 SHIN》を結成。重要無形文化財保持者(総合認定)。



大藏基誠(おおくら もとなり)

25世大藏彌太郎の次男で24世大藏彌右衛門と父に師事。4歳8ヶ月で「以呂波」にて初舞台を踏み、今日までに「末広がり」「那須の語」「千歳」「三番三」「釣狐」を被く。小・中・高に出向き狂言を楽しませる学校狂言を展開し若い世代に伝統芸能の楽しさを伝える。

重要無形文化財保持者(総合認定)。



大藏教義(おおくら のりよし)

2世大藏吉次郎の長男。

第24世宗家故大藏彌右衛門及び、父に師事。4才で『業平餅』の稚児役で初舞台を踏み、今日までに狂言における大曲・秘曲、「末廣がり」「千歳」「那須」「三番三」「釣狐」を被く。

重要無形文化財保持者(総合認定)。



茂山忠三郎(しげやま ちゅうさぶろう)

茂山 忠三郎家、四世忠三郎の長男。父に師事。4歳にて『以呂波』のシテで初舞台を踏み、その後「釣狐」、「三番三」、「花子」、「狸腹鼓」など秘曲、重曲を被く。重要無形文化財保持者(総合認定)。

項目内容
ワークショップ

① ご挨拶 ② 狂言「盆山」



①指導者は紋付袴で体育館に集まった児童生徒の前に登場します。狂言に関して基本的な知識と日本の文化・伝統芸能について簡単に分かり易く説明します。

②解説と実演、児童生徒へのクイズを交えた鑑賞で初めて接する狂言に楽しみながら親しんでいただきます。

③ 体験



稽古を始める前の挨拶(礼儀作法も含め)から基本姿勢と所作、動物の鳴き真似や擬音などの狂言ならではの表現法を解説と実演を交えて体験していただきます。

④ 狂言「菌(くさびら)」のお稽古 ⑤ 発表会と感想



④本公演で共演する「菌(くさびら)」のきのこの精を練習します。指導者より所作、発声など細部にわたって稽古をし、本公演での共演に臨んでいただきます。出演の代表児童生徒は複数のグループに分かれて練習します。

⑤練習を終えたグループごとに「菌(くさびら)」のきのこの精を発表します。またワークショップに参加しての感想や本公演で共演することへの意気込みなど